

【抄 録】

## 『バーチャル咬合器を使いこなすための 3つの要点』

Dental Labor GmbH Gross 主任 **高瀬 直**  
(東京都歯科技工士会)

「バーチャル咬合器って使えないよね」

しばしば耳にするフレーズである。実際、バーチャル咬合器はまだまだ発展途上であるとの見方が強い。

しかし、その認識は些か誤りである。

意外と周知されていない“バーチャル咬合器のシステムの欠陥”を補正し、最低限の咬合理論を学べば、バーチャル咬合器は明日からでも臨床応用可能な素晴らしいツールとなる。

口腔内スキャナーを併用したフルデジタル技工においては、クラウン設計時に模型が存在しない場合が多い。したがって、顎運動再現の為にはバーチャル咬合器の活用が必須となる。

そこで今回は CAD/CAM システムに搭載されているバーチャル咬合器を主題に「明日から使える咬合理論」をサブテーマとし、その使用方法並びに臨床応用を紹介したい。

【抄 録】

## 『マルチレイヤー ジルコニアディスクと低融点汎用ステインを使用した色調再現テクニック』

Dental Labor GmbH Gross 主任 **高瀬 直**  
(東京都歯科技工士会)

近年の CAD/CAM 普及に伴い、切削加工セラミックスの市場規模も比例的に拡大している。

切削加工セラミックスの代表たるジルコニアは 研磨法、ステイン法、築盛法と臨床応用において汎用性が高い。

とりわけ構造強度と審美性を両立したステイン法は、作業工程の短縮にも寄与し、世界的に補綴治療の主流となりつつあると認識している。

そこで今回は、昨今の臨床現場において採択頻度の高いマルチレイヤージルコニアと低融点汎用ステイン材を使用し、その色調理論ならびに再現手技を供覧したい。